

令和6年度 江別市立江陽中学校 自己評価書

令和7年 2月12日  
江別市立江陽中学校

1. 本年度の重点目標  
「先を見据え 持続的に挑戦できる生徒の育成」～歩みを止めず 未来を輝かせるために～  
2. 自己評価結果に対する学校関係者評価

A:よい(充分達成された) B:概ねよい(概ね達成された) C:ややよくない(やや不十分) D:よくない(不十分である)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	① 教育目標や年度の重点を意識し、共通理解に基づき、協働性をもって取り組んでいるか。	A	教育目標や重点の共通理解を図り、協働体制を重視してきた。重点目標を「先を見据え、持続的に挑戦できる生徒の育成」～歩みを止めず 未来を輝かせる～とし、フォーサイト手帳を有効活用し、自己管理能力を高めることを目的とした。具体的には、計画的に物事を進め、自己課題解決に向け持続的に取り組む、自己効力感や自尊感情を高める取り組みを進めてきた。本校生徒の課題である「持続的に挑戦できる」という部分については、変化がみられるもののまだ道半ばである。全員参画による協働体制の確立を図り、重点目標の達成に向けて今後も、学校組織の強化・活性化を図っていく。	A A6	A A6
	② かかわりと励ましを基本とし生徒の良さが生かされる教育活動に取り組んでいるか。	A	一人一人の生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築けるよう、授業や日常生活を中心に、コミュニケーションに重点を置きながら積極的な関わりを心掛けた。また、情報共有を図り、未然防止・早期発見・早期対応の観点から生徒指導を進め、教育相談等の体制を整えてきた。本校生徒の強みである、他にやさしく仲間とともに協力できる良さを大切に、今後は発達支援的指導や子どもの権利の尊重を図り、生徒の自己効力感をさらに高めていけるよう取り組んでいく。	A A6	A A6
	③ 保護者、地域との連携を深め信頼される学校づくりに取り組んでいるか。	A	PTA活動を見直し2年目となった。一家庭一役の取組について、交通安全見守り活動、花壇整備活動、各種研究大会への協力の他、小中一貫ボランティア活動への参加も加え、江陽中学校区が一体となった活動を進めることができた。とうきび販売では、PTA役員や学年委員に尽力いただいた他、国内交流事業では、おやじの会にかまくらを作っていた。学校運営委員会の統合も検討しており、さらに地域が一体となった学校づくりに取り組んで行く。また今後も学校だよりの全地域配布・HPの公開等で情報発信に努め、保護者アンケート等を取り入れた学校評価等、地域・社会に開かれた学校を目指していく。	A A6	A A6
	④ 生徒に向き合う時間の確保と職員のワークライフバランスに配慮した働き方の見直しを進めているか。	B	教職員が生徒と直接関わり、向き合う時間を確保するために「働き方改革」のコアチームを中心に業務の見直しを図り、職員アンケート等で個々の意識改革に務めた。また、昨年に引き続きICTを活用した業務効率化を目指し、配布文章のマチコミ活用もさらに進めてきた。しかし、超過勤務の劇的な解消には至っておらず、働き方改革が進んだと実感できない職員も多くみられる。今後は「生徒に身に着けられるべき力」が備わっている活動に関しては精選をし、必要な活動に時間を費やすことができるよう、働き方改革に努めていく。	A A6	A A6
教育課程・学習指導	① 確かな学力を育む学習活動の工夫は推進されているか。	B	江別市学校課題研究発表会に向けて、研究主題「自己肯定感を持ち、確かな学びを獲得していく生徒の育成」をめざし、必要感のある対話、ICTを効果的に活用した授業を職員全員で取り組んできた。効果的な発問の工夫により、考え、発言することで頭を働かせる授業を目指し、授業改革に対する手ごたえはあった。しかし学力向上には結びついていない部分もあり、指導方法の一層の工夫を図る他、TTや習熟度別学習に加え、放課後学習等の積み上げで引き続き学力向上に努めていく。また標準学力テストや全国学力・学習状況調査の結果分析、さらに本校独自の生徒アンケート等による生徒の実態把握、課題の共有化を図り、さらなる授業改革を進めていく。	A A5B1	A A5B1
	② 思いやりや感謝の心を持ち、共に高め合う学年・学級集団の育成は図られているか。	A	道徳や特別活動、総合的な学習の時間等では、自分自身を見つめ、他人、集団や社会、自然等との関わりを考えさせてきた。その中で、周囲を思いやり、支え合い、認め合って活動する機会を意図的に作るとともに、体験的な活動の充実を図ることにより、自己肯定感や有用感を醸成し、思いやりや感謝の心などを大切にする「豊かな心」を育ててきた。生徒会が主体となって取り組む「いじめ撲滅集会」では、事前の授業で、一人一人にしっかり考えさせることで集会が深まり、意識の高揚を図ることができた。今後も、学校活動全体で「思いやりや感謝の気持ち」を意識させ、落ち着いた校内生活を送らせるとともに、生徒会や学級活動、行事、集会を通して共に高め合う集団づくりを目指していく。	A A6	A A6
	③ 家庭学習の習慣化を図る、学力向上プロジェクトの推進は充実しているか。	B	家庭学習の定着を図るため、生徒一人一人にあった選択式の方法を取り入れた。フォーサイト手帳を活用し、自ら選択した家庭学習に取り組みせることで、意欲が上がり、家庭学習の習慣化に一步前進した。しかし、学力向上にはなかなか結びつかず、内容も含めてさらなる改善が必要と考える。タブレット学習に取り組む生徒が増えたことから、AIドリルを効果的に活用した家庭学習の充実が図れるよう、継続して取り組んでいく。今後も、家庭、地域の協力を得ながら、学習意欲の向上を図り、学習習慣の定着と学力の向上を一層図っていく。	A A5B1	A A5B1
	④ 生徒が生き生きと活動する学校行事等の企画や運営が適切に行われているか。	A	体育祭、学習発表会の2大行事では目的を意識し、積極的に生き生きと活動する生徒の様子が見られた。どの学年も仲間と協力しながら、作品作りを通して団結力を高めることができた。旅行的行事については、1年生校外学習、2年生宿泊学習、3年生修学旅行を実施し、学級や学年の生徒同士のつながりを深めることができた。今後は子どもの権利を尊重し、子どもたちの意見が各種行事へ反映され、達成感・成就感が味わえる行事となるよう、計画的に進めていく。	A A6	A A6
	⑤ 生徒一人一人の勤労観・職業観を育て、主体的に進路選択する指導が適切に行われているか。	A	1年生の総合的な学習の時間では勤労体験の機会としてとうきび販売を実施。2年生では、事業所において2日間の職場体験を行った。3年生は上級学校（酪農学園大学）を訪問し、大学の講義を体験した。今年には野村ファーム北海道に協力をいただき、3年生の金融の授業や、家庭科において、収穫・販売したとうきびのレシピ作りを行う等、幅広い活動ができた。様々な取組が文部科学大臣表彰を受けた。職業を知ること、働くことの意義、自分の将来の夢などを踏まえた進路設計と実現のために必要な努力や課題について、生徒が自分で考え努力できるような総合的な学習や進路指導を、今年度も進めていく。	A A6	A A6

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	① 挨拶、きまりや集団のルールを守るなど基本的な行動ができる集団づくりに努めているか。	A	生徒会の活動において「目を見て挨拶」を意識した取り組みを発信し、一定の成果を挙げることができた。決まりや集団のルールを守る基本的な指導を行ってはいったものの、問題行動が起きてからの指導も多かったため、改めて未然防止につとめ、指導部・学年部を核として、協働体制を確かなものとしていく。あわせて、保護者との連携を図る取組を着実に積み上げていく。また、生徒の自主的な活動を促す指導・支援も継続して行う。	A A6	A A6
	② いじめ・不登校・問題行動への対応は、共通理解のもと、保護者と連携し適切に行われているか。	A	「生徒指導提要」を抜粋した資料を準備し、短時間の研修を積み上げるなど、全職員で今必要な生徒指導の在り方について確認をし、未然防止・早期発見・早期対応に向けた取組を行った。また、不登校生徒への登校支援として、校内支援ルームの充実を図った他、学びの保障については、オンライン授業の体制を整えるなど、可能な限りの準備を行った。今後もスクールカウンセラーやソーシャルワーカー、江別市教育支援センターねくすと等、関係機関との連携を十分に図り、個々に応じた相談体制を整えるとともに、保護者との連携を大切に、適切な対応に努める。	A A6	A A6
	③ 健康や安全にかかわる指導は、適切に行われているか。	A	健康上の配慮を要する生徒の情報共有を欠かさず適切に行ってきた。また、次年度も外部機関と連携し「交通安全教室」「マナー講座」「避難訓練」「非行防止・薬物乱用防止教室」「情報モラル教室」「食育授業」「救急救命講習」などを実施し、健康・安全指導を計画的に進めていく。また、今年度から防災教育の充実を図り、備蓄品の配置も行った。自治会等と協力し、地域に防災教育を広げていけるよう取組の充実を図っていく。	A A6	A A6
	④ 生徒会活動や学級活動は、生徒の自主性を育む活動となっているか。	A	各委員会活動、集会活動等、生徒会や生徒自身が主体的に取り組めるように指導を進めてきた。年度の途中から、学校長と生徒会役員との月一度の意見交流（意見表明会）会を実施し、学校長自ら子ども達の意見を尊重し、学校経営の視点に盛り込むなど、生徒の自主性を大切にしてきた。また各種行事では、委員会や生徒会が中心となって活動し、生徒の達成感や充実感が高まりがみられた。子どもが意見できる場を積極的に作り、子ども達のアイデアで自主的な活動が進められるよう今後も推進していく。	A A6	A A6
小中一貫	① 9年間の系統性・連続性を強化した小中一貫教育が行われているか。	A	完全実施2年目となり「系統的指導」に重点を置いてきた。昨年度作成した「重点項目」については、校内の各種会議とタイアップさせ、全職員で意識することができた。今後は「教科系統表」「重点項目」の江陽中校区内での共通理解及び指導のさらなる強化を図る（職員室掲示、職員へのデジタルデータでの配布、校内研修、合同研修等）。充実した活動とするには、家庭・地域とさらに協働した取組が必要となる。職員一人一人の意識を高め、家庭や生徒により分かりやすい活動となるよう進めていきたい。	A A6	A A6
	② 小・中学校教職員の連携協力による一貫教育が推進されているか。	A	全職員が参画意識を持ち、小中一貫教育を推進してきた。年2度の全体会議を持ち、実施計画に基づいて役割分担を明確にし、めざす子ども像を共有して実現に向け取り組んだ。全国体力運動能力テストにおいて、シャトルランの「合同実施」が大きな成果をあげた。各取組についても、全職員で協働・分担して推進する体制が整備できていた。今後は江陽中学校区の目指す子ども像を実現するための具体策を全職員（江陽中学校区3校）にアンケートをとり、小中一貫教育での「やりたいこと・必要なこと」を共有、整理をし、知恵を出し合い同一步調で連携を強化を図りたい。	A A6	A A6
	③ 小中一貫教育の取組を保護者・地域等に広く周知するための工夫が行われているか。	A	今年度は「子ども、教職員、保護者、地域がわかる小中一貫教育の発信」を3校の推進重点の1つとした。江陽スタンダードの設定、学校教育説明会やPTA総会や学校運営委員会での発信、学校だよりやホームページを通して小中一貫教育の取組を保護者、地域に広く周知することができた。また、今年度はクリーン作戦を一家庭一役に取り入れ、町内会とPTAの協力を得ながら実施した。江陽中スタンダードの掲示が来校した方の目に届いていたと感じる。引き続き町内会やPTAにご協力いただけるよう地域に見える活動を推進していく。	A A6	A A6
その他	① 「花と緑の江陽」の取組は適切に行われているか。	A	町内会との連携について、学校運営委員等と検討し、地域の活動となるよう工夫を図った。また、花壇ボランティアやPTA花壇整備活動を中心に「花と緑の江陽」の取組を継続し、充実した活動を行うことができた。特別支援学級の畑の整備も引き続き継続され、校内にも「花のある風景」を意識した取組が推進された。今後も活動を工夫し、PTAや地域の方々の協力を得ながら、ともに創り上げる花壇を目指し、環境整備を進めていく。	A A6	A A6
	② 心を育てるボランティア活動の取組は適切に行われているか。	A	小中一貫教育として、7月に恵明園の方のご協力をいただき、窓ふきなど、生徒のボランティア活動を実施した。江別太小学校、豊幌小学校の児童と共同で活動に取り組む予定であったが、暑さで小学校の活動が中止となった。今年度は生徒会役員のアイデアで募金活動に取り組むなど前進することができた。今後も活動の見直しや新たな活動の検討をし、地域や校区の小学校と連携して取組を進めていく。	A A6	A A6
	③ 合唱活動等を通じた、感性豊かな環境作りの推進は適切に行われているか。	A	学習発表会の合唱発表、儀式や集会での校歌や全校合唱の取組など、本校の合唱活動は生徒の誇り、伝統となっている。学習発表会ではコンクール形式で実施し、学級の団結を高めるとともに、先輩が一生懸命に歌う姿を後輩に見せることで、本校の伝統である合唱の灯を受け継ぐことができた。今後も全教職員の共通理解と関わりをもち、地域との連携を絶やさず、地域の誇りとなるとともに、地域の中で育つ生徒づくりを目指していく。	A A6	A A6
	④ 校内組織の活用や交流、実践など特別支援の推進は適切に行われているか。	A	特別支援教育コーディネーターや校内特別支援教育委員会を中心に、担任や学年と連携し、生徒一人一人に寄り添い、情報共有と共通理解を図りながら取組を進めてきた。SCの研修会を開き、職員全員で多様性について学び、また、特別支援教育に関する研修にも取り組んだ。特別な配慮や合理的配慮、個別の支援を要する生徒の指導・支援に関し、会議毎に生徒指導交流を行い、共通理解と情報の共有を深め、特別支援教育のさらなる充実を図っていく。	A A6	A A6

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- ・明るく優しい中学生らしい中学生が多いと感じます。これも先生方の接し方が大きいと思います。なにかと業務の多い先生方に感謝いたします。体も心も疲れすぎないようにして下さい。
- ・今年度からマチコミのタイムラインが活用され、いろいろな生徒の活躍が見られてよかったです。
- ・江陽中全職員の教育活動への熱意が感じられます。生徒・保護者・地域との関わりを重視しており、種々の改善が達成される事を期待します。
- ・いつも生徒に寄り添った取組、ご指導に感謝しております。また、様々な取組が評価され、文部科学大臣表彰を受けたことは大変素晴らしいことだと思います。授業を参観させていただいたり、行事を見させていただくことがあるのですが、授業にも行事にも積極的に取り組む生徒の姿にいつも感心しております。
- ・不登校の子が何人いるのかは気になる場所ですが、これからも生徒ひとりひとりが達成感や自己肯定感を得られるよう、又、支援を要する生徒への寄り添った指導など引き続きよろしくお願いいたします。